



NIE授業の「方法論」紹介

県高校国語研究会

高校の国語教諭らでつくる県高校国語研究会は15日、新聞活用について学ぶNIE学習会を那覇市の県立小祿高校で開いた。初開



見出しを読んだ後、印象に残った記事を紹介し合う参加者ら15日、小祿高校

催となる学習会は、県NIE推進協議会の協力で、NIEアドバイザーの兼松力大里中教諭が講師を務め、12人が参加した。「内容論」から「方法論」へと流れが変わってきているNIEの現状を紹介したほか、学習会の様子を記事にするワークショップを行い、記事の特徴を理解することを促した。

兼松教諭は「記事の内容そのものを教材として使うには、教師にとつて準備時間や技術が求められ、浸透しない面があった」とし、新聞を広く授業で活用するには「総覧性や記事の書き方など新聞の特徴を捉えて活用していくと、より使いやすくなる」と説明した。

豊見城高の上原静香教諭は「関心のある記事を選ばせ、グループで意見交換させる実践などが参考になった」と話した。